

第4章 学生の受け入れ

【点検・評価】 本学の入学者選抜方法は、こうした意見聴取の結果であり、高校の進路関係者はもとより社会的にも納得される公平性をもち、なおかつ高校生の大学受験動向を踏まえた妥当なものとなっている。大学全入時代を間近に控え、受験動向が毎年のように大きく変わる現在、本学としては、さらに高校の進路関係者に対する意見聴取をする必要があることは言うまでもない。

6 アドミッションズ・オフィス入試

1) アドミッションズ・オフィス入試

(C群:アドミッションズ・オフィス入試を実施している場合における、その実施の適切性)

【現状の説明】 本学では、1999年度に行われた自己推薦入試Bをもとにして、その翌年からAO入試(アドミッションズ・オフィス入試)を始めている。AO入試を導入した大学としては初期に属しており、高校では批判の多いAO入試を本学独自のものとして発展させ、聖学院大学のAO入試として認知されるまでにしてきた。

推薦入試においては、受験生の高等学校における成績及び生活態度をもとにして入試が行われる。また、一般入試は受験生の学力を問う入試と位置づけられる。しかし、近年、高校生の学力低下が問題にされ、さらに授業の受講態度、あるいは勉強の仕方そのものに問題があると思われる例も散見される。したがって、資質的にはいいものを持っていながら、高校生活においては、その資質を開花させることなく終わるケースが多く見られるのではないかとこの予想にたち、勉学姿勢を身につける、大学での授業に対応できるように準備する意味で、本学では「AO入試(アドミッションズ・オフィス入試)」を行っている。

本学のAO入試は、オープンキャンパス開催時に行われる事前面談から、エントリーカードをもとに行われるA面談、そしてA面談終了時に出されるレポート課題をもとに行われるB面談と、少なくとも3回の面談を行うため、最低で1ヶ月半ほどかかる。したがって、本学を第一志望とすることはもちろんのこと、勉学意欲なくしては続かないものとなっている。さらに、大学の雰囲気を感じることができ、教職員との緊密な関係を築くことができるため、入学当初から積極的に授業等において参加できるメリットがあると考えられる。その結果、AO入試を早くから志望して、合格を勝ち取るものには、各学科のリーダーシップをとる学生が多く見られることも事実である。

本学はAO入試を重視している。本学の入試全般におけるAO入試の位置づけ、および各学部学科別の取り組みについては、学生募集方法、入学者選抜方法(p.155)および入学者受け入れ方針等(p.152)の項で詳述した。

【点検・評価】 AO入試は、ともすれば入学者の早期確保を目的とした安易な入試に流れやすい傾向
【課題・方策】

がある。本学では、時間をかけた、きめ細かな対応によって各学科の理念・教育目標に合ったAO入試を実施していることは評価できる。

一方、選抜に当たる教員の負担増、本学と競合する他大学の動向、および高校生の大学への全入時代による質的变化に対応して、各学科に適合する学生の確保は今後の課題である。さらに、もう一つの課題は、全学的統一を取りつつ、各学科の特色あるAO入試を実施することにも限界があることである。

7 入学者選抜における高・大の連携

1) 推薦入学における高等学校との関係

(C群: 推薦入学における、高等学校との関係の適切性)

【現状の説明】 アドミッションズポリシーでも明らかにしているとおり、本学は高等学校とのコミュニケーションを大事にしている。本学の特色ある教育は理解されつつあり、単に多数の受験生が送られることを目的にするだけではなく、本学の教育にあった受験生ひとり一人が選ばれて送られるようにしている。とくにこの2年あまり、高等学校における本学の教育に対する理解が進んでいると思われ、多くの高校から受験生が送られている。一方、推薦入試の趣旨から考え、推薦された受験生は極力、合格者とするように心がけている。不合格となる率は、志願者が急増した人間福祉学部児童学科を除き、低くなっているのが現状である。

【点検・評価】 現在のところ、推薦入試の定員は人間福祉学部人間福祉学科、児童学科では40名、その他2学部の6学科では30名としており、各学科の定員の50%を下回っている。また、実際の合格者数について見ると、各学科入学者の50%を下回ってはいるものの、入学定員に対する比率が50%を超える学科も出ているが、大学全入時代を迎えるにあたり、入学者が減少してきており、次第に定員数に近づきつつあることから、入学定員数に対する推薦入試合格者の比率は今後下がるものと予想され、適当な割合になるものと思われる。

【課題・方策】 早期に進路を決めたいという受験生の心理状況と、確実に学生を確保したい大学側の思惑から推薦入試合格者の入試全体に占める割合は全国的には増加する傾向にある。学生の質を確保することと、入試全体から見た入学者数バランスの検討は常に必要である。本学では、一般入試、AO入試および自己表現入試において、これまで通りの入学者数を確保することによって推薦入試の合格者数の割合を50%以下におさえることは、学生の質を保つことにつながると考える。